

平成24年度第2回「学校関係者評価委員会」報告

1 概要

(1) 日程 3月14日(木) 13:30～15:00

(2) 場所 本校第二会議室

(3) 出席者

学校関係者評価委員 岸保戸坂城山小学校校長

奥田同窓会会長

奥本PTA会長

本校教職員

福原校長

岩本副校長

伊勢崎高等学校教頭

中川中学校教頭

八木教務部長

渡辺進路指導部長

麻野国際理解教育部長

飯盛情報図書部長

2 内容

校長挨拶及び出席者の紹介に続き、第一回学校関係者評価委員会で指摘された事柄をもとにしたその後の教育活動について、各教頭及び部長から重点項目を中心に説明を行った。

(1) 中学校の重点課題とそれに対する具体的な取組み

(2) 高等学校の重点課題とそれに対する具体的な取組み

(3) 教務部として

① 授業に真剣に取り組む態度を育む方策について

② 新教育課程の完全実施に伴う教育課程の編成について

③ 授業評価アンケートの活用及び改善点について

(4) 進路指導部として

① 組織的・計画的な学習合宿の在り方について

② 進路アドバイザー制度の実施及び改善方策について

- ③ 平成25年度大学入試合格状況について
- (5) 国際理解教育部として
 - ① 国際理解教育の推進を図る諸行事の自己評価について
 - ② 海外姉妹校との交流内容について
- (6) 情報図書部として
 - ① ICT機器を活用した業務改善を目指した取り組みについて
 - ② ICT機器を活用した授業改善の取り組みについて
 - ③ 「公開授業」の紹介及び今後の方向性について
- 3 学校関係者評価委員からの意見及び助言
 - ① 項目別評価シートのA～Cの評価レベルが、取り組みの内容は理解できるが、どのような根拠で評価されているのか分かりにくい。
 - ② 英検にしても何年生までに何級を取得させるといったような、「数値目標」をできる限り設定することを検討して欲しい。
 - ③ すべての教育活動を数値で評価することは難しいと思うが、「作成マニュアル」のようなものがあれば、達成できたらA、できなかったらCといった評価もできるのではないか。
 - ④ 学校行事や授業についても生徒の「満足度」などが評価指標にできるのではないだろうか。
 - ⑤ 学校の主体でどのようにして授業を良いものにしようとするのか、といったことを自己評価の中に入れるべきである。
 - ⑥ 「板書計画」「教材研究」なども項目として考えることができる。
 - ⑦ 姉妹校交流の中でオーストラリアの学校との交流が以前ほど活発ではないという説明があったが、その原因は何があるのだろうか。
 - ⑧ 結果を評価することはもちろん大事だが、「プロセス」の評価があっても良いと思う。
 - ⑨ そうした意味では「指示事項」がどれだけ整理、あるいは処理できているかというような途中での評価も大切である。
 - ⑩ ICT教育は大切な教育活動であるとは認識しているが、これは一つ間違えばプライバシー等の問題にも発展する恐れがある。綿密な啓発や配慮が不可欠である。
 - ⑪ 教育活動全体はすぐれた取り組みが行われていると思うが、それを客観的に評価できる仕組みを次年度に向けて工夫して欲しい。